

第一課 神

(マニュアル)

『何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるからである。』
ルカ12:11、12

これから個人指導を始めて参ります。その前に上記の御言葉をじっくり味わって下さい。これは聖書の約束です。神様は必ず守り、必要な知恵、御言葉を与えて下さいます。信仰を持って祈りつつ始めて参りましょう。

- テキストに入る前に5～10分（礼拝後では1～2分）の挨拶、交わりなど出来ると良いでしょう。皆さんもそうですが受講者はもっと緊張しています。まず気持ちをほぐして下さい。
- テキストに入る前にまず、お祈りをします。終了時も同様です。この時、手の組み方など簡単に話してあげると良いと思います。
- 暗唱聖句
 - イ) テキストでなく、なるべく聖書そのものを開いて聖書より直接暗唱してもらって下さい。本人が持っていなければリーダーのでも良いですし、備品の聖書でも構いません。
 - ロ) 赤鉛筆を用意し、線を引くことを話してあげると良いでしょう。
 - ハ) 暗唱聖句は、次回第二課に入る前にもう一度、再暗唱できると理想的です。
- 聖句
 - イ) まず暗唱してもらいます。まず読み、暗唱の為の時間を1～2分与えます。そして見ないで言ってもらうわけです。唯、年齢が高い人、主婦などで暗唱が苦手の人がいるかも知れません。その時は無理をしないで下さい。繰り返し読み、理解してもらうだけで十分です。
 - ロ) 説明をするなら、暗唱の後がよいでしょう。聖句は易しいのは覚えてもらうだけで十分ですが、難しい時は少し説明してあげて下さい。順序は暗唱、次に説明です。
- この時、常に覚えなければならない事は、御言葉そのものに力があるという事です。有名な説教家の言葉に、「御言葉をして語らしめよ」、とありますが御言葉への深い

信頼は大切です。

○ 話し方

教師言葉が大切です。友達言葉は避けます。指導する時、これは大切なことです。

＊「さぁ、読んで。」－「さぁ、読んで下さい。」

＊「教会は初めてですか。」

＊「～です。」

＊「～しましょう。」

これら教師言葉を崩さないで下さい。指導が終わったら多少リラックスしてもよいと思いますが、それでもあまり崩さない方がよいでしょう。特に、第五課の「告白」までは慎重が無難です。

- 第一課は最初に質問から始まります。(助詞を入れる「が」「を」)そのためかうっかりすると、その後もみな質問をしながら進める、というパターンになりがちですが、これは注意を要します。特に年齢が高い人、社会的に立場のある人、あまりその様なことになれていない主婦等、いやがられる可能性があります。

- 原則的には質問形式で進めるのは避けた方が良いでしょう。質問をしながら進めるという方法、つまり「これが分かりますか」、「どう思われますか」、という方法にもプラス面はあります。それは本人が考えただけ印象が強くなるからです。
従って、慣れている学生や、年齢が低い人の場合、多少注意しながら用いる分には問題ありません。

- 時間の配分は（一般的には）

＊テキスト・・・30～40分（礼拝後の場合は15分を目安に）＊交わり・・・20～30分
（アンケート用紙を見て様子を聞くのも良い。例、この教会へは誰かの紹介で来ましたか）これが目安です。テキストは普通30分あれば十分終わります。少し説明を加えても40分あれば十分です。

- 時間の事で大切な事は、「過ぎない」、という事です。ゲームも交わりも全て同じですが、「もう少ししたい」、というところでやめるのがコツです。「過ぎたるは及ばざるがごとし」、という諺がありますが過ぎては行けません。長続きさせるコツは、「もっと～」、と思うあたりでやめることです。時間は一時間これが原則です。どんなにオーバーしても30分位まで。これが大切です。

- 「お祈りの仕方」、もある段階で説明して頂くとよいでしょう。そうすれば自分でも祈れるようになります。
 - 1) 手の組み方（みなさんのしている方法で可）
 - 2) 祈り
 - イ) 最初・・・愛する天のお父様。
 - ロ) 最後・・・このお祈りをイエス様のお名前によってお祈り致します。
 - ハ) 途中・・・おわび、感謝、お願い。
 - 3) アーメン（A - men）は家に帰り、辞書を引いてもらうのも一つの方法です。

- テキストの読み方

いろいろな方法があります。

 - イ) リーダーが読みながら進める。
 - ロ) 受講者に読んでもらい、説明を加える。
 - ハ) これらの組合せ。

やり易い方が良いでしょう。

- 第一課にはいる前に、「はじめに」があります。これを忘れずに説明して下さい。すなわち、「はじめに」、次に第一課です。

- 終了後1～2分時間をさき、今学んだアウトラインだけでも復習すると、より理解しやすいでしょう。

- 質問について（その1）

指導が終った時、「何か質問がありますか」、あるいはつい不安になって、「今日の学びはどうでしたか」、と聞いてみたくなりますがどちらかという避けた方が無難です。

特に第五課の告白までは、まっすぐ最短コースを進んだ方が賢明の様に思います。理由は沢山あり、文章には書ききれないのですが要は脇道にそれたり、脱線してしまい、焦点がぼけてしまうのを避けるためです。上にも書きました様に第五課までは、とにかくまっすぐに進んでもらいたいからです。

- 質問について（その2）

逆に、第六課以降はなるべく質問の時を持って下さい。救いの後、いろいろな疑問が出てきます。これを一つ一つ指導して行くことは大切です。場合によってはテキストの指導、一般の質問を50対50位の比重でとらえて頂くと良いでしょう。そしてその説明は信仰の成長の為に大切です。

○ 質問について（その3）

出来れば質問という言葉避けて、「何かお分かりにならない事がありますか」、この位のいい方の方が無難です。質問という言葉はそのものが固く、互いに身構えてしまう響きがあるからです。

○ 質問について（その4）

「難しいことを聞かれたらどうしよう」、その様な心配をしがちですが、まず安心して下さい。難しい質問は普通出てきません。特に第五課位までは。今まで出てきた質問は、

「マリヤ様を飾ってある教会とこの教会はどう違うのですか。」「お祈りの時、手はどの様に組むのですか。」

この程度です。

もし、答えられない質問が出てきたらどうするか。

イ) 来週までに調べておきます。

ロ) 牧師先生にお話しておきます。或は、お聞きしておきます。これで十分です。

○ 質問について（その5）

第六課以降質問が出てきます。又出てこなければなりません。時として難しい質問もあるかも知れません。大いに研究、努力して下さい。でもすでに救われたのですから安心です。

○ 聖書購入の勧め

放っておくと、書店で「新改訳聖書」や「共同訳聖書」などを買ってしまいます。教会で扱っていることを説明し「口語訳聖書」を、それも小型ではなく、できれば中型か、大型聖書を勧めて下さい。小型のは3～4年で崩れて、使えなくなってしまう。

○ 指導上の心得（その1）

主にある確信を持って話して下さい。病人がお医者さんの所に行き、「多分治ると思いますが・・・」、とか「大丈夫と思いますがなんとも・・・」、などといわれたら不安になってしまいます。信仰の指導も同様です。従って信仰の事を語るときは確信を持って話して下さい。

「神様は必ず、救って下さいます。」

「神様は必ず、祝福して下さいます。」

「イエス様を信じて救われれば、必ず変わります。」

自分の意見、考え方、人生観等を語るときはひかえ目がよいのですが、神の事、聖書の事を語るときは、下腹にグッ！と力を入れて、確信を持って話して下さい。

○ 指導上の心得（その2）

「宣教師はしつこい、強引だ」、とよく言われます。以前はその様な考え方に同調していましたが、最近は間違いであることが分かりました。愛はしつこいのです。愛の中には強引と呼ばれる部分を、元々含んでいるのです。私たちの個人指導は言葉を変えれば、「永遠の滅び」、に定められている人間を、「永遠の救い」、へと導くことです。なんとしてでも救われて欲しいと思うなら、宣教師の様にしつこく、強引で当然です。主にあって、聖別された熱心さをぜひ与えて欲しいものです。

○ 指導上の心得（その3）

一人の受講者が終わった後の感想として、「思ったより難しくなかった」、と言っていました。なにかホッ！とした様ないい方でした。個人指導、又聖書の教えというと、人はものすごく難しい事をするかの様に考えてしまいます。うっかりするとプラトンや、ソクラテスでも出てくるのではないかと。故に、最初の感想として上記のように思ってくれることは大変良いことです。第一課はその様なことも考慮し、少し易しく、かつ短く作ってあります。

○ 指導上の心得（その4）

同性の場合は問題ありませんが、そうでない場合、密室になることを避ける配慮をして下さい。子供部屋の様にガラスがある場合には問題はありませんが、そうでない場合、戸を少し開けておくなどの配慮をして下さい。

『しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。』

『宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。』

.. ああ、麗しいかな、良きおとずれを告げる者の足は、』

ローマ10:14、15

第二課 人 間

(マニュアル)

- 二回目なので指導する側も、される側も大分緊張がほぐれ、リラックスしてきます。指導の内容も一応、見当がついたので受講者も気分的に楽です。楽しい雰囲気始めて下さい。
- お祈りも二回目なので落ち着いてじっくりと祈れます。主の恵みを求めてまいりましょう。
- 第一課の暗唱聖句を少し時間をさいて再暗唱させて下さい。御言葉を貯える事は大切です。
- 暗唱出来た時、「とても良いですね。」「しっかり覚えられて感謝です。」、これらの励ましの言葉も大切です。
- 暗唱聖句の時、聖書の箇所も覚えてもらおうと良いでしょう。第一課はヨハネ3:16です。
- 暗唱聖句を一度めにきちんと言えない時はさらに時間を追加して（例えば30秒～1分）再暗唱してもらって下さい。言い方に気を付ければ失礼にはなりませんし、不愉快な印象を与えることもありません。
- リーダーも初心にかえって暗唱してみるのも一つの方法です。「では私も見ないで言ってみます」、自分を同じ立場に置くのも、親近感を与える良い方法かも知れません。ただ必ずこうしなければと言う事ありません。
- 第二課はテキストを学び終わると自然に暗唱聖句の意味が分かります。従って暗唱のみで解説は省略しても構いません。
- 本文を扱う時、創世記は開いて下さい。唯、聖句が長いので前後は触れないで、中心の聖句のみに絞って赤線でも引いて頂いた方が良いでしょう。

例、創世記1:26

『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、』以下は省略します。

創世記2:7は全部必要です。

- 3の「人間の特性」の中で、4)の神を認識する力、これを強調することは大切です。これが次の伝道の書に続くわけです。
- 伝道の書3:11も中心聖句は後半の、『神はまた、人の心に永遠を思う思いを授けられた。』
です。前半もよい御言葉ですが今は焦点をぼかさないために省略します。
- ページの四角内の例話
これは長く書けないので断片的に書いてあります。これは受講者に読んでもらってはいけません。リーダーがこれをストーリーあるいは文章にして説明して下さい。
- 又、例話については、各自で適切なよい例話を知っているかも知れませんが、その時は大いに、かつ自信をもって用いて下さい。
- 例話を用いて聖書の真理を解き明かすのはまことに聖書的なことです。なぜならイエス様自身、例話をもって話されました。
マタイ
『イエスはたとえを使わずには何もお話にならなかった。』
例話を使って霊的な真理を明確にする事は大切です。自信をもって下さい。
- 終了後、普通20~25分位時間があります。良い交わりの時をもって下さい。唯、この時留意すべき事は次の二点です。
 - 1) あくまでリーダー、指導する立場にあることを忘れないこと。言葉も崩さない。
 - 2) 最初からあまりプライベートな部分には立ち入らないこと。あまり考えすぎると話せなくなってしまうので上記を多少、頭にいれながらリラックスして話して下さい。
- 祈り
個人指導で大切なことはやはり祈りです。氷山の大部分は水面下に没しています。同様に個人指導の方法論はあくまでも一部分であり、戦いの大部分は水面下の祈りにあります。十分祈って下さい。又、個人指導をしているときも絶えず祈りながら神様の助けと導きを求めて下さい。エペソ6:12

『わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく・・戦いである。』

- 終了後玄関まで見送りが出来るとベターです。(これはその後すぐに帰る場合ですが) この時出来れば、20～30秒の差なのでから姿が見えなくなるまで見送って下さい。これが最高の見送り方です。
- 第二課を学ぶ時、一つ注意しなければならない事は、「進化論」、の問題です。結論をいいますとこの段階で触れない方が賢明です。指導する側もついつい触れたい誘惑にかられますが避けて下さい。万一（めったにありませんが）質問された時は、「その問題は後で改めてお話します。今日はまず、聖霊がどの様に教えているかを学びましょう。」そう言ってテキストに戻って下さい。そして必要なら第六課以降、十分時間をとって話して下さい。
- (学ぶ人への注意事項)
今は聖書の教えを一つ一つ学んでいます。全て信じられなくても一向に構いません。ただ、聖霊がどの様に教えているのかを理解して下さい。やがて救われた時、内に与えられた聖霊なる神が、必要に応じ一つ一つ自然に信じられるように導いて下さいます。
- 救いのための最小限の知識
人が救われるには最小限の知識は必要です。このテキストで指導していて、「これで十分なのかなあ～」、と考える人がいるかも知れません。結論を先にいうなら十分です。このテキストを用いてすでに救われている人が多く起こされています。またキャンパスクルセードの、「4つの法則」、総動員伝道の、「大いなる救い」、などはもっともっと簡単です。そして彼らはこれで十分、人は救われると信じ伝道しているわけですし、現に多くの人が救われているのです。人の救いは知識の多少ではありません。「確かに救いのための最小限の知識」、は必要ですが多ければ良いという様なものでもありません。要は聖霊の働きです。そして知識の多くは救いの後、身につけていくべきものなのです。
- 最後に次回の約束を忘れずに。また互いに電話等で確認し、連絡の方法を確認して置いて下さい。人によっては自宅に電話されると困る人もいますので電話をして差し支えないか、本人に確認すると良いでしょう。

では、祈りつつ進めてまいりましょう。

第三課 罪

(マニュアル)

いよいよ核心に入ってきます。特に第三課で扱う罪は、今後の救いの為にも大切です。この罪がばかされたり、はっきりしないとこの後に来る救いが、ぼけてしまいます。祈りつつ慎重に扱って下さい。

また、私たちは罪を教える事が出来ますが、罪を悟らせて下さるのは聖霊の働きです。祈りつつ聖霊の助けを期待し、学びを進めて下さい。

○ 暗唱聖句

- 1) 第一課、第二課分に少し時間をさき、再暗唱出来ると理想的です。ただし都合により、省略してもかまいません。
- 2) 第三課の暗唱聖句は、テキストの部分で十分ですがもし可能なら、節全部を覚えられればベターです。ただ無理する必要はありません

○ イザヤ59:2の説明

イ) 口頭で説明するのも方法ですが、

ロ) ノート（あるいはテキストの余白）に絵を書きながら説明するのも一つの方法です。（絵は各自で工夫して描いて下さい）

ダム

ゴミがつまっていると通じない
このゴミ＝罪

蛇口

上記の絵の様に、神の恵み祝福を妨げているもの。それが罪。とが。
その他

『ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。』

『主の手が短くて、救い得ないのではない。』

このみ言葉についても何か良い絵が書けるかもしれません。

- リーダーも、受講者と一緒になって暗唱するのも方法です。若い時、一つでも御言葉を貯えておく事は、クリスチャンにとっては貴重です。
- テキストは、受講者に一区切りずつ読んでもらい、その都度解説しながら、進めるのが一番やり易いようです。他の方法でもかまいません。
- 英語を使います。(sin crime)
人によっては英語というと、
 - イ) 難しいと思う人もあり、
 - ロ) また嫌みっぽく感じる人もあるかも知れません。ここでは、罪を一番分かり易く理解できますので、あえて使いますが上記の点を頭の片隅に入れておいて頂くと良いでしょう。
- テキストのsinとcrimeの図は、crimeがあくまでsinの一部分を意味する、この事を理解して頂ければ良いでしょう。
- 人が、心に罪を理解するのは次の二段階に分かれます。
 - イ) 罪に関する十分な知識（この学びはその為です）
 - ロ) もう一つは聖霊の働き。最初に書きました様に、罪がどういうものであるかを教えて下さる聖霊に期待しつつ祈りながら進めて下さい。
- 罪の例話
テキストには少し載っています。慣れない人の為です。指導する皆さんも、何か良い例話を思い出すかも知れません。それらを自由に使ってください。
 - イ) テキストに追加して使用するのも、
 - ロ) テキストの例話の代わりに使用するのも、いずれも可です。
- テキストのⅠヨハネは、ヨハネと区別しにくい場合もあります。慣れない受講者の為に、この区別を話してあげる事は良いことです。
- テキストの朝日新聞の記事は、罪はどんなに小さいものでも記憶に残り、良心のとがめとなることです。それはやがて神に裁かれるものであることを強調して下さい。記憶にある罪はすべて許されなければならないのです。したがって罪の恐ろしさを心の中に深く受け止めることが出来るように、祈りの中に導いて下さい。

- 『もし、罪がないというなら・・・真理は私たちのうちにはない』 I ヨハネ1:8
聖書の光に照らされ、意味を十分説明され理解し、それでもなお私は罪がないというなら、その人の内には真理がないという意味です。
- 最後に、「今日は罪はどういう事かを学びました。この一週間〇〇さんも自分の内に、どの様な罪があるか考えてみて下さい。」
軽くその様に話せると良いでしょう。
- まとめとして、2～3分で簡単に総復習出来ると効果的です。
次週第四課に入る時も、暗唱聖句を中心に第一課から第三課まで、3～4分で復習できると効果的です。
- 終了後、祈ります。受講者にも手を合わせ、心を一つにして頂いて下さい。
- お祈りの後、少しリラックして交わりが出来ると良いと思います。脱線しない程度に交わりの時を持って下さい。
- 質問について
前にも少し触れていますが、この学びは第五課が大きな分岐点です。
イ) 五課までは、あまり質問が入らない方が無難です。
ロ) 六課以降は、大いに質問の時を持って下さい。救われた直後はいろいろな疑問が出てきます。救いの成長の為にそれら一つ一つを説明し、指導する事は大切です。
- テキストはその都度、受講者に渡します。ファイルするものを用意して頂き、保存出来ると良いでしょう。
- 聖書を読む事を、少しずつ勧めて下さい。新約のマタイかヨハネからが良いでしょう。
聖書は、一度読んだ位では分かりません。生涯かけて何度も読み返すものです。分からない所があっても、とにかく読むことを勧めて下さい。
- 初心者に分かり易い本があると良いです。
イ) 初めて来た人には小さな本を渡しています。

ロ) 教会でも、貸出用の備品としての本を少しずつ用意します。例（世の光のショートメッセージ等）

ハ) 皆さんの手元に何か良い本がありましたら、貸してあげてください。

入門的な本、あるいは伝記の様なものが良いでしょう。

- ただ、人によっては読むのが苦手の人があります。主婦などで時間がとれない人もいます。従って、負担とならない様に配慮して下さい、「もし読めなかったら無理せず、1～2週でお返し頂ければ結構です。」等。

第四課 十字架 (マニュアル)

- いよいよ、核心に入って来ます。この課は、祈りつつ真剣に取り組むなら、教える人も大きな恵みを得る課です。

また、クリスチャンホームの子供や、教会学校から育った人などを指導するとき、彼らにとっても大きな恵みです。

以前、教会学校から育った一人の高校生を指導し、最後に祈ったとき、涙ぐみながら祈っていたのを印象深く思い出します。

- 感動とは、人に伝わるものです。語るものの感動が、人を動かします。そしてクリスチャンが、最も感動するのは何かと問われるなら、それは十字架です。

主がわたしの罪のために、この苦難を受けてくださった。これに感動しないで、クリスチャンは何に感動するのでしょうか。この課は深く祈りつつ、感動をもって語るべき課です。そして、導くあなた自身も、もう一度、主の恵みを覚えて恵みを受けて下さい。

- 教会に来る人は、すべて十字架は知っています。しかし、十字架が

- イ) 私たちの罪の身代りであること

- ロ) キリストが代わりに死んで下さったこと

- ハ) ここに愛があること

- この事は知りません。

- 人間は、これを知った時、変わるのです。

- また、よく「神の愛」という言葉を使いますが、その愛はどの様に表されているのでしょうか。

それはすべて、十字架の中に示されているのです。従って、この課を語るときは、祈りながら、かつ、聖霊の助けを受けながら、受講者が是非、この「神の愛」又「キリストの愛」を知ることが出来るよう、努力して下さい。

中心はポイント「3」です。

一緒にマタイを開き、一つ一つ説明しながら進めて下さい。

1) ムチ

ローマのムチ打ちの刑は残酷でした。三本に分かれたムチの先には、鉛や骨がうえ込まれていたといわれます。3〜4度、強く打つと皮膚に食い込み裂けてしまい

ます。残り30数度は、傷ついた背中に直接食い込みました。40度打つと死ぬ可能性が大きく、そこで39度でやめられたといわれています。

刑が終わった後、イエス様の背中は肉が裂かれ、血が飛び散り、ザクロの様に割れていたであろうといわれています。

聖書はたった一言「ムチ打ってから」としか書いてありませんが、この短い言葉の背後にこれだけの事実があるのです。

2) ～7) も同様です。

テキストにも一部、書いてあります。ただ読むだけでなく、解きあかして下さい。オーバーになることはいけませんが、聖書が教えていることを正しく伝えることは、証人である私たちに与えられた大切な責任です。

- そして、最後のクライマックスがルカ23:34のみ言葉です。このみ言葉は、これだけ読んでもよく意味が分かりませんが、テキストの1) ～7) までを一つ一つ読んで来て読むとき、意味が本当に分かるのです。主があなたの指導を祝し、指導を受けている人の心の中にこの言葉が、しっかり理解されることを祈っています。

- 人の心を最後に捕らえるのは愛です。人々はこの愛を知ったとき、初めて心を開くのです。

又同時に、その神の愛は、語るあなたを通して表されます。

一人の高校生が教会にきました。キリスト教に反発を感じていました。集会後、一人の役員がこの高校生に近づき、聖書の話をしました。彼はいっこう心を開こうとはしません。

最後に、祈りの時を持ちました。そして高校生は見ました。役員の目に涙が光るのを。その涙を見た時、彼の心は砕かれました。

「この人はわたしを愛してくれる」

その晩、キリストを信じて救われました。

神の愛は、聖書を通して語られます。しかし、時としてはクリスチャンの中に具体的に表されるのです。

第五課 救いの祈り

(マニュアル)

この課は特別に聖霊の働かれることを願い、各自祈り深く取り組んで下さい。

○ 暗唱聖句

テキストには、Ⅰヨハネ1:7のみですが出来れば1:9も一緒に覚えてもらって下さい。この課では共に大切です。7節は『御子〜』だけで十分です。

○ 5〜6分時間をさいて、1〜4課までを復習すると良いかも知れません。

イ) 暗唱聖句をもう一度、読む程度。(再暗唱までゆかなくても可)

ロ) 本文のアウトラインだけでも。

○ この課は、特に祈りが大切です。語りながらも、聖霊の助けを求め続けて下さい。この助けなしには、決して、決して、この課の祝福はないのですから。

○ 本人の決断

決断の大切さ。この時、大切な事は、導く側の信仰と熱意です。決断する自由は導かれる本人にあります。が、実際問題として「拒む自由」があり得るのでしょうか。今は永遠の救いか、永遠の滅びかの中間に立っています。つまり、私たちが永遠の滅びを本当に信じているとしたら、その滅びを選ぶ様な選択を許容し得るのでしょうか。出来ないでしょう。なんとしてでも、救われてもらわなければならない。五課まで来たら、そして4まで来たら、95%は「告白の祈り」まで導いて欲しいのです。この時、大切なことは導くあなたの信仰と熱意です。

『見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である。』

この御言葉を、しっかり覚えておいて下さい。

○ 旧約と新約の違い

その最大のものは血です。

旧約・・・動物の血（主に羊）

新約・・・イエス・キリストの血

血は共に共通です。1で、この事に少し触れることが出来ると良いでしょう。

○ 2は、実際にⅠヨハネ1:9を開きつつ聖書より直接説明して下さい。

- 告白する罪の内容によって席を外す事、家に帰り自分で祈る事もあり得ますが実際は少ないです。導くあなたは、アシスタントである事を良く説明し、90%は一緒に良いでしょう。教職もそうですが信徒であってもこれに準じます。
- 罪のおわびの祈り
罪を具体的に導いて下さい。時間は心配せず、ゆっくり考えられると良いです。
- 一応、具体的なリストが出て来たら念の為にもう一度3の2)、3) を読んで下さい。
- 祈る前に4の1)～5)を少し説明して下さい。
- 更に順序、言葉等、を覚えてもらって下さい。
- 祈る前に、黙祷をし、目には見えませんが、今祈りに耳を傾けていて下さる神様に祈るのだ、という事を十分説明して下さい。臨在を自覚する事は大切です。まちがってもリーダー（指導している人）に祈るではありません。
- 「ごめんなさい」を心から敬けんな気持ちで祈れるように話して下さい。目に見えない神様に心から、「ごめんなさい」、「許して下さい」、とお祈りしましょう。悔い改めの祈りが、心からなされる事は大切です。それは姿勢や言葉からも大きな影響を受けます。
- 本人が祈り始めたら、リーダーも心を合わせて祈り、主の助けを求めつつ、アーメンが言えると良いです。
- 終わった後、その時は力強く、「子よ汝の罪許されたり！」この確信にみちた祈りが大切です。牧師以外は頭に手はおかない方が良いでしょう、確信に満ちた祈りは同じです。
- 祈るとき、時として、「私も同じ罪人である事を告白します」と祈ることもあります。一段高い所にいる人間ではなく、罪許された罪人としては同列、同類の人間である事を明らかにする意味です。
- 本人には、はっきり宣言して下さい。
「これであなたは救われました。！」

「今日から神の子です。良かったですね。！」

あやふやな言い方ではなく、はっきり教えてあげる事は大切です。

- 聖書を読む事。集会に出席する事を勧めて下さい。礼拝だけでなく祈禱会でも聖書研究会でも結構です。少しでも多くの集会の交わりに入る事は大切です。
- 最後に次回の約束をして下さい。出来れば、次の第六課だけでも、一週間後ではなく、もう少し近い間に出来ると良いかも知れません。
- 祈りの打ち合せ
家に帰ってもう一度、祈る事を勧めます。「救われた事を感謝します」という感謝の祈りは大切です。出来れば時間を決めて下さい。「帰ってすぐ7:00に祈ります」同じ時間リーダーも心を合わせてお祈りして下さい。必要なら他のクリスチャン、先生にも連絡し一緒に祈ってもらおうと良いでしょう。

五課で悔い改めの祈りが出来たらすばらしい事です。

しかし、あくまでスタートであり、戦いはこれからです。サタンの攻撃誘惑も激しくなってきます。人間でも幼児死亡率が高いように、信仰でも救われた直後が一番危険です。その危険から守られる為には祈りしかありません。皆さんが真剣に祈ると共に、教会の中に共に祈ってくれる人を一人でも多く得ることが大切です。

感謝しつつ主が更に、はぐくみ育てて下さる事を祈って行きましょう。